

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 畜産研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 飛騨牛研究部 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 13,801 千円 (前年度予算額：27,146 千円)

< 財源内訳 >

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	27,146	0	0	0	0	0	21,046	0	6,100
要求額	13,801	0	0	0	0	0	8,042	0	5,759
決定額	13,801	0	0	0	0	0	8,042	0	5,759

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内畜産業では、生産者の高齢化・担い手不足、国際情勢による飼料価格や畜産資材の高止まり、畜産環境問題等が課題となっている。こうした課題に対応し、生産性向上や県内畜産ブランド製品の振興を目指すために、生産現場や流通面からのニーズを的確にとらえた研究開発を実施する。

(2) 事業内容

畜産研究所において「家畜の育種改良の推進」、「畜産新技術の開発」、「畜産環境の改善」を目的として、農政部研究課題設定要綱に基づき決定された地域密着型研究課題について以下の試験研究調査を行う。

飛騨牛の子牛生産阻害因子の解明

非分解性蛋白質の早期給与が牛枝肉成績に及ぼす影響

乳用牛の周産期における潜在性疾病の早期発見技術の開発

養豚業における抗菌薬の使用量を低減する新たな飼養管理技術の開発

畜舎汚水のメタン発酵に係る前処理方法の開発および廃液の液肥活用に向けた肥料成分濃縮方法の開発

岐阜県和牛集団に最適なゲノム育種手法の確立

血中因子を指標とした効率的な肉用牛肥育方法の開発

枝肉重量及びロース芯面積を改善する飼料給与方法の開発
自給飼料の利用拡大及び高品質化に向けた飼料分析に関する研究
豚抗病性改善指標の in vitro 評価系の創出
肉用奥美濃古地鶏原種鶏群の改良および雄系原種鶏の作出に関する研究

(3) 県負担・補助率の考え方

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,402	研究データ分析等のための旅費
需用費	10,675	実験器具等の研究の各種消耗品
役務費	984	研究のための通信運搬費
その他	740	研究機器の備品購入費、学会等参加負担金等
合計	13,801	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐	新規要求事業
☒	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
県内の畜産農家又は業界内で問題となっている課題について研究を行い、その成果を普及することにより、県内畜産農家における生産性の向上、ブランド畜産物の振興などに資する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
技術移転の推進	-	12	12	12	12	100%
	(H)	(H29)	(H30)	(R1)	(R3)	
外部資金の導入		14	11	8	8	100%
	(H)	(H29)	(H30)	(R1)	(R3)	

○ 指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
研究所の基本方針に沿って、外部資金研究を含め 15 課題を実施している。
（飛騨牛）計 5 課題
・岐阜県和牛集団に最適なゲノム育種手法の確立
・枝肉重量及びロース芯面積を改善する飼料給与方法の開発 他
（酪農） 計 4 課題
・高泌乳牛の生涯生産量を向上させる乾乳期の飼養管理技術に関する研究
・自給飼料の利用拡大及び高品質化に向けた飼料分析に関する研究 他
（養豚） 計 4 課題
・豚抗病性改善指標の in vitro 評価系の創出
（養鶏） 計 2 課題
・肉用奥美濃古地鶏原種鶏群の改良および雄系原種鶏の作出に関する研究

(前年度の成果)

・ 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
和牛肥育牛、肥育豚、肉用鶏への飼料用米給与に向けた課題、及び食味に及ぼす影響が明らかになりつつある。
肉用牛の育種技術にゲノム育種価を利用する場合の精度向上について検討した。
また飼料分析データと土壌分析データを組み合わせることにより、自給飼料の品質向上のための肥培管理方法について情報提供できた。
豚肉の霜降りを増加させる遺伝能力を持つ種雄豚の改良において、新たな遺伝領域を追加特定し更なる改良を進めている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い ：必要性が低い	
(評価) ○	畜産をめぐる国際環境の変化、生産基盤の弱体化、消費者ニーズの多様化等を受け、県内畜産物のブランド推進、畜産農家経営安定のための技術開発、技術移転を進めていく必要がある。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている ：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	これまで、開発・確立した技術は、県内畜産振興に寄与する成果を得ている。（技術移転の推進では、平成21年度以降、ほぼ同水準を維持。）
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている ：向上の余地がある	
(評価) ○	試験計画や進捗状況、研究成果について検討を図るとともに、共同研究(国研、大学)の推進等により効率的に研究開発が進められるよう研究体制の効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項
より効率的に研究成果を上げるための研究体制（共同研究の推進、公募型研究への取組など）を引き続き構築していく必要がある。
研究成果の技術移転と質の高い技術支援が図れるよう、若手研究員等の人材育成に努める。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
研修会等での関係者の意見等を踏まえ、必要とされる課題について取り組み、畜産物生産性向上および県内畜産ブランド製品の更なる振興につなげる。

予 算 要 求 資 料

令和３年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛騨牛改良事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

１ 事業費 52,569 千円（前年度予算額：51,239 千円）

< 財源内訳 >

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	51,239	0	0	0	51,239	0	0	0	0
要求額	52,569	0	0	0	52,569	0	0	0	0
決定額	52,569	0	0	0	52,569	0	0	0	0

２ 要求内容

(１) 要求の趣旨（現状と課題）

「飛騨牛」ブランドの維持・発展と畜産農家の経営安定を図るため、和牛生産事業及び人工授精事業を行う。

(２) 事業内容

- ・和牛生産事業 … 優良種雄牛の造成、優良雌牛群の系統保存、優良子牛の供給、繁殖雌牛及び和牛子牛の飼養管理技術に係る研究と実践
- ・人工授精事業 … 優良種雄牛の凍結精液の生産・譲渡

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	12,763	繁殖及び人工授精関係の機材、消耗品等
修繕料	3,000	農場作業用車両・機材等の修繕
飼料費	25,672	繁殖センター及び種雄牛の飼料
役務費	9,030	和牛関係、人工授精に関する各種手数料等
工事請負費	0	
備品購入費	419	データ整理・解析用パソコン
その他	1,685	精液証明書の印刷、原材料費等
合計	52,569	

決定額の考え方

事業評価調書

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
「飛驒牛」の銘柄化推進の旗頭となる黒毛和種種雄牛を造成すると共に、
所内の繁殖雌牛群から生産した優良子牛の供給を行う。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
優良子牛生産頭数	(H)	9 0 (H29)	8 4 (H30)	7 8 (R1)	9 6 (R3)	81%
優良種雄牛凍結精液配布本数	(H)	16,962 (H29)	16,655 (H30)	16,737 (R1)	19,000 (R3)	88%

○ 指標を設定することができない場合の理由

-

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・直接検定牛として 10 頭の選抜を見込む（うち 2 頭は畜産研究所生産牛）
 - ・令和 2 年 9 月現在で 35 頭の優良子牛を農家へ譲渡した。
 - ・子牛育成試験を実施し、発育の改善効果や適正な飼料設計についての試験を実施している。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・現在までのところ、育成試験を実施している子牛の発育は良好であり、消化速度の異なる蛋白質や牧草の組合せが体格の向上や日増体量の改善に寄与していることが示唆される。
 - ・なお、令和 2 年度は 96 頭の優良子牛の生産及び、凍結精液 19,000 本を供給する計画である。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、 ：必要性が低い	
(評価) ○	・飛騨牛ブランドの維持発展のために、今後とも県有種雄牛の凍結精液を安定的に供給し、有効利用のための技術支援を行う必要がある。 ・安福系種雄牛の計画的な造成が望まれているが、一般農家では近交係数が上昇することによる子牛への影響が懸念されるため、当所で生産することへの期待が高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、 ：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	・県内で利用される和牛凍結精液の90.7%(H30年次)が県有種雄牛の凍結精液であり、全国的にも非常に高い割合になっている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、 ：向上の余地がある	
(評価) ○	・繁殖雌牛及び子牛の飼養管理技術の向上により、生産率が向上 ・県有種雄牛については3つの系統を整備しており、基幹種雄牛12頭の位置付けを考慮しながら、農家のニーズに応えられる体制を整備

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・牛舎を始めとする各種の施設、農機具及び備品等が老朽化してきており、飼養管理に支障を来す場合も生じていることから、改修・更新に伴う費用が必要

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか。 ・引き続き、農家のニーズに応え得る県有種雄牛凍結精液の供給体制を維持すると共に、「飛騨牛」の特徴である「脂肪質の良さ」「淡い肉色」「小ザシ」及び「モモ抜けの良さ」の改良が期待出来る種雄牛の計画的な生産を目指す。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	-
組み合わせる理由や期待する効果 など	-

予 算 要 求 資 料

令和３年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 家畜性判別胚供給事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

１ 事業費 1,822 千円（前年度予算額：1,822 千円）

< 財源内訳 >

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,822	0	0	88	1,734	0	0	0	0
要求額	1,822	0	0	88	1,734	0	0	0	0
決定額	1,822	0	0	88	1,734	0	0	0	0

２ 要求内容

(１) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・乳牛改良により、酪農経営の安定化を図るため、乳用牛の性判別胚（受精卵）を希望する酪農家に譲渡するとともに性判別胚利用の実技支援を行う。

実施期間 H20～

(２) 事業内容

- ・性判別胚の譲渡に必要な経費 1,822 千円

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	94	全国会議等への参加経費
消耗品費	1,513	性判別胚等にかかる消耗品(性判別キット、性腺刺激ホルモン等)
原材料費	215	人工授精用精液
合計	1,822	

決定額の考え方

事業評価調書

☐ 新規要求事業
☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・高能力乳用牛の雌胚を年間60卵程度県内の酪農家へ供給し、県内乳用牛の改良を促進し酪農経営の向上に資する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
優良雌胚の譲渡	0 胚 (H19)	54 胚 / 年 (H21)	70 胚 / 年 (H28)	66 胚 / 年 (R1)	75 胚 / 年 (R3)	88.0%
農家が所有する授精胚の雌雄判別	0 胚 (H19)	3 胚 / 年 (H21)	0 胚 / 年 (H28)	0 胚 / 年 (R1)	10 胚 / 年 (R3)	0%

○指標を設定することができない場合の理由

-

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・譲渡可能な高能力乳用牛由来の雌胚を60胚以上県内酪農家へ譲渡する。
- ・農家が所有する胚の雌雄判別を10胚以上実施する。
- ・凍結された雌胚の融解方法を獣医師や受精卵移植師に教える。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・凍結された雌胚の融解方法を獣医師や受精卵移植師に指導した。
- ・雌胚の譲渡は計画通り順調に行われている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、 ：必要性が低い	
(評価) ○	・乳用牛の改良は雌牛の改良が中心になる。T P P等で農家経営の存続が危ぶまれている中、乳用牛の改良促進による農家経営の向上は重要である。 ・雌雄判別技術は特殊施設や多くの機械器具を必要とするため、開業獣医師や受精卵移植師では対応できない。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、 ：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	・高能力乳用牛の雌胚のニーズは多く、生産が追い付かない時もあるが、指標の9割程度達成できている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、 ：向上の余地がある	
(評価) ○	・研究成果により効率的に胚の生産ができるようになった。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・ニーズに十分対応できる高能力乳用牛の雌胚の生産 ・利用者が簡便に利用できる（庭先融解など）凍結方法の確立

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ドナーとなる高能力乳用牛を効率的に生産する技術の開発を重点研究で令和2年度から実施している。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	

